

## SS探究科学Ⅱ ルーブリック評価 理科（研究の過程編）

		A 高評価	B	C	D 低評価	
主体性	学ぶ意欲	①多方面への興味関心 (広がり)	自分たちの課題研究以外の広い自然科学分野にも興味関心を示す	自分たちの課題研究に関連したことに興味関心を示す	自然科学で自分が好きな分野にのみ興味関心を示す	自然科学に興味・関心がない
		② 知識の獲得 (深さ)	学習意欲があり、先行類似研究の調査を行い、高校教科書より深い科学知識を獲得している	学習意欲があり、自分たちの課題研究の先行・類似研究等の調査を行っているが理解に乏しい	学習する意欲があるものの課題研究について先行類似・研究調査が行えていない	課題研究について学習する意欲がない
	研究	③ 実験の方向性	実験の目的を意識し、新たな発見につながるような実験設定ができている	テーマ決定後、目的に沿った実験設定ができている	テーマ、目的は決まっている	テーマ、目的が決まっていない
		④ 実験の操作	実験器具を正確に扱え、より高い質のデータを得るために試行錯誤し実験に創意工夫を加えている	さまざまな実験機器で実験を行っているけれど測定が正確に行えていない	実験を行うための適切な器具や機器を準備したが使い方がわからない	実験方法を組み立てられていない
		⑤ 実験結果の取得 (PDCAサイクル)	実験を繰り返すことで結果の信頼性が高い	実験結果が出ているがデータの信頼性が低い	実験行っているが、結果が出ていない	実験を行っていない
		⑥ 協働性	グループ内の活発な議論と役割分担により、全員で協力し、効率よく実験が行えている	グループ内で役割分担し、全員で実験を行っているけれど議論が少なく、効率的ではない	グループ内で役割分担したが全員で実験を行えていない	グループ内で研究に対する役割分担ができていない
	ノート/ 記録	⑦ 必要事項の記録 (方法・条件・結果)	実験再現のために必要な事柄や整理され、さらに実験結果をデータ化し研究発表用に図グラフ表が作成されている。	実験方法、条件、結果が記入されている	実験方法、条件が記入されている	実験方法、条件（日時/場所/操作/手順/装置/従事者/引用）結果が記入されていない
		⑧ 気づきコメントの記入 (考察の記入)	実験結果に対し再現につながる気づき、振り返り、コメント等が多く記入され、 <u>考察が</u> <u>しっかり</u> できている	実験結果に対し、ノートに気づき、振り返り、コメント等の記入が <u>多く</u> あるが考察内容が不十分である。	気づき、振り返り、コメント等の記入が <u>少ない</u>	ノートに気づき、振り返り、コメント等の記入が <u>ない</u>